

# 北海道浮魚ニュース

平成 20 ( 2008 ) 年度 3 号 ( 通巻 No.256 )

2008 年 5 月 30 日

## 北海道立水産試験場

ホームページ : [http://www.fishexp.pref.hokkaido.jp/ukiuo/uki\\_index.htm](http://www.fishexp.pref.hokkaido.jp/ukiuo/uki_index.htm)

### 日本海スルメイカ北上期調査結果

5 月 22 日から 5 月 28 日までの期間、松前沖から秋田県男鹿半島沖にかけての海域で、函館水産試験場調査船金星丸 ( 151 トン、イカ釣機 5 台、集魚灯 20 灯装備 ) により実施したスルメイカ調査の結果をお知らせします。

**5 月末現在のスルメイカ日本海北上群の分布密度は昨年同時期をやや上回った。魚体の大きさは例年に比べ小さい。**

#### 1 . 水温分布 ( 図 1 )

漁獲調査点 6 点の表面水温は 11.3 ~ 14.4 ( 昨年 11.8 ~ 15.8 ) の範囲にあり、日本海沖側の 2 点 ( St.1、St.6 ) を除いて昨年を下回りました。水深 50 m の水温は 7.2 ~ 11.2 ( 昨年 6.1 ~ 12.8 ) の範囲にあり、久六島西方沖 St.6 と松前沖 St.21 の 2 点を除いて昨年を下回りました。

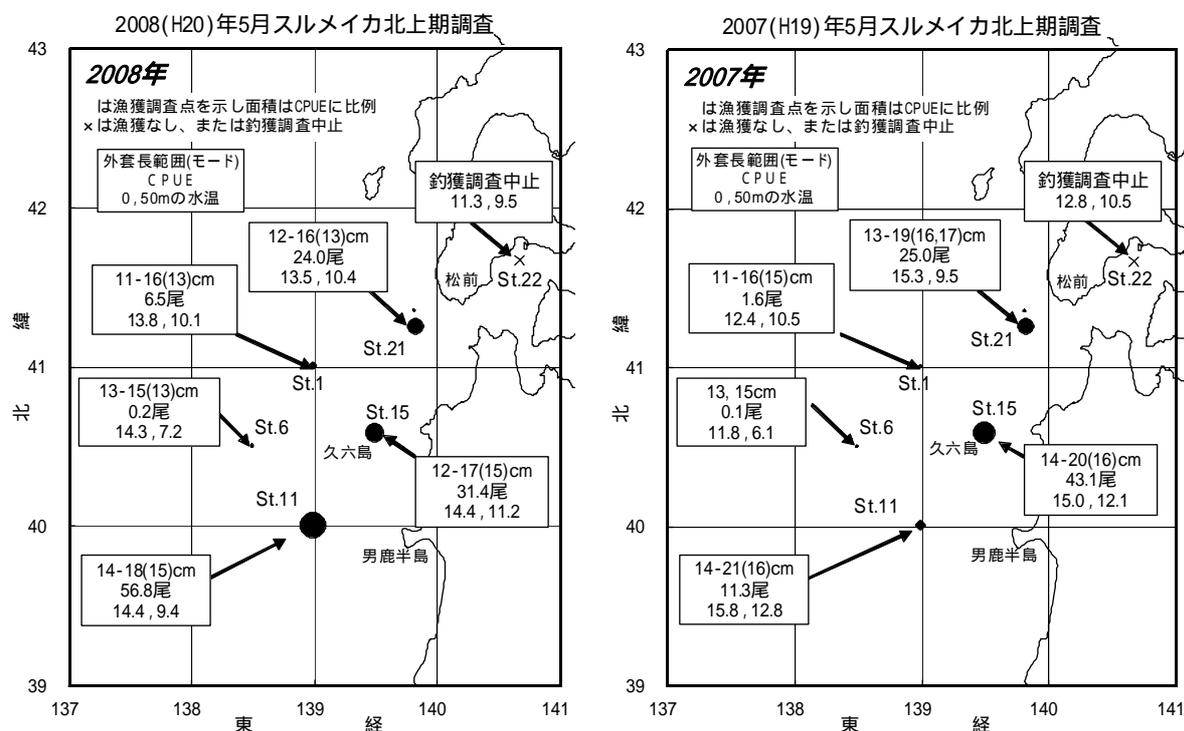


図1 スルメイカ漁獲調査結果 ( 2007年との比較 )

#### 2 . 分布密度 ( 図 1、図 2 )

松前沖 St.21 以南 5 地点の CPUE ( 2 連式イカ釣機 1 台 1 時間当たりの漁獲尾数 ) は 0.2

～ 56.8 の範囲（昨年 0.1 ～ 43.1）にありました。平均 CPUE は 23.8（昨年 16.2）と昨年を上回りましたが、2001 年以降では 2 番目に低い値でした。最も CPUE が高かったのは男鹿半島沖の St.11（CPUE 56.8、昨年 11.3）で、全体として、昨年と同様に沿岸寄りの調査点で CPUE が高い傾向が見られました。

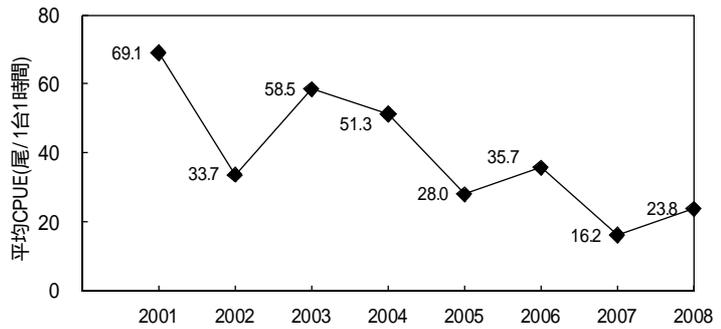


図2 平均CPUEの経年変化(2001年以降)

### 3. スルメイカの大きさ

調査海域全体でのスルメイカの外套長（胴長）の範囲は 11 ～ 18cm（昨年 11 ～ 21cm）、最も多く漁獲されたイカの大きさ（モード）は 15cm（昨年 16cm）で昨年より小さく、2001 年以降では最も小型となりました（図 1、3）。各調査点ごとのモードの範囲は 13 ～ 15 cm（昨年 15 ～ 17cm）でした（図 1）。

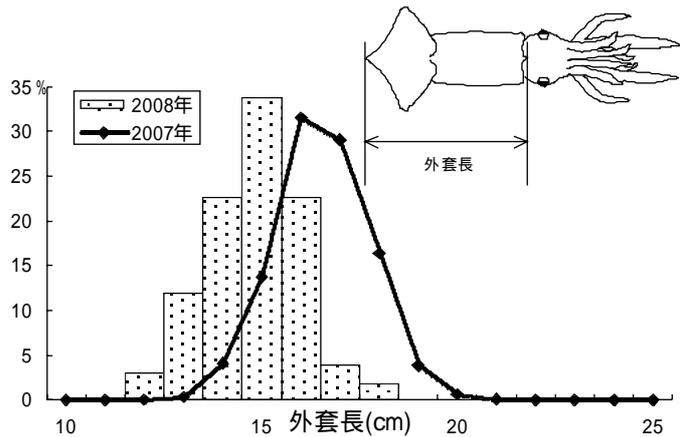


図3 調査海域全体の外套長組成

### 4. 標識放流（図 4）

調査期間中、秋田県男鹿半島沖 St.11 でスルメイカの標識放流を行いました。標識のついたイカを発見されましたら、函館水産試験場調査研究部までご一報下さい。その際、以下のデータについて、分かる範囲で構いませんのでご連絡をお願いします。

- 標識の形状と番号（必ず）
- 再捕日時
- 再捕場所（分かれば緯度経度）
- 再捕の方法（釣り、定置網等）
- 再捕個体の外套長
- 再捕個体の体重
- 再捕個体の性別

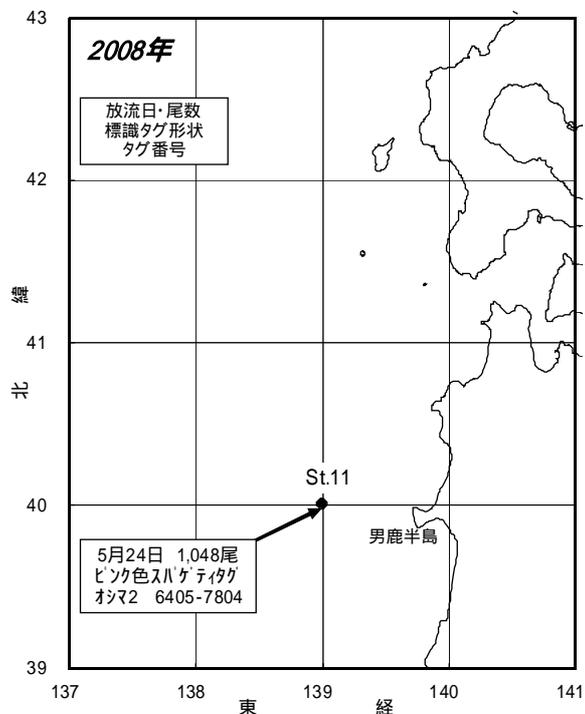


図4 2008年スルメイカ標識放流地点

（文責：函館水産試験場調査研究部 TEL：0138-57-5997 直通、FAX：0138-57-5991）